

委員会報告

総務常任委員会

委員長 葛谷寛徳

管内視察調査報告

7月2日に管内視察調査を行いました。今年度は現場の意見交換を重視し、視察先は6ヶ所としましたが、主なるものについて報告します。

◆ハートピア古川

(乳幼児学級の見学)



親子を対象とした、親子のふれあいや、親同士の交流、子育て学習会が行なわれていました。親子が気軽に遊んだり、子育ての悩み相談や気になること相談なども行なわれ

ており、子育てに関する情報提供、遊び場の提供など、大変充実している拠点となっています。参加されている皆さんは、笑顔が絶えない、親子の姿が印象的でした。そのためかより一層室内が明るく感じました。

◆古川中学校、神岡中学校

(スーパー少人数指導授業参観)

確かな学力をつける特色ある学校づくりをめざし、学力向上プロジェクト「スーパー少人数指導事業」が導入されましたが、対象とされている数学、英語の授業を初めて参観しました。

市独自に雇用した、数学、英語の免許を保有している退職教員等を古川中、神岡中に配置して、基礎学力の定着を目的とした県の習熟度別少人数指導の拡充と、より発展的で高等な数学、英語を学習する習熟度別少人数指導コース一集団を3コースに分けて指導されています。生徒一人一人の学力の定着度や伸びをもとに、単元毎等に習得コース、活用コース、発展コースの3コースを選択しています。退職された先生方は、ペテランでもありよりわかりやす

く、伸び伸びと生徒に指導されているように感じました。既習事項を再確認もでき、又より高度で専門的な内容に取り組むこともできるため、生徒一人一人の学力に対応できる「スーパー少人数指導事業」の確かな可能性を感じました。

全体として、意欲のある生徒は、さらなる学習の向上を目指しており、つまずきのある生徒は、丁寧な指導により少しずつ解消されているとのことでした。

◆河合保育園ほか

市有財産であるふれあいグランドや起し太鼓会館を視察。

産業常任委員会

委員長 後藤和正

管内視察調査報告

6月30日に管内10か所の視察調査を行いました。今年度の委員会の政策課題として里山整備事業及び獣害対策をテーマにしました。また、空き家廃屋対策については、昨年引き続き調査研究をしていくことに決めました。そのテーマの基に、地域獣害防止対

策の防獣柵設置状況を視察するため、鳥獣被害対策事業において地域で自力施工されている神岡町伏方と古川町太江を見学しました。



伏方地区は、平成25年度にワイヤメッシュ柵を資材に対する国の補助(10分の10)にて、地域を囲む2.8km設置されました。補助対象事業費は約270万円で1m当り約970円でした。施工手間は、延べ4日間、出役110人を4組に分けての自力施工で行われました。

太江地区は、平成23年度にワイヤメッシュ3363m、金網柵2397m、電気柵1514mの3種類を設置さ

れました。こちらも自力施工で19日間延べ450人が出役され、資材に対しての補助対象事業費は、1070万円でした。どちらも設置後14年間の経過報告の義務がありません。

そのほか、神岡振興事務所にて山田防災ダム観測機の新システム、神岡町麻生野橋工事の進捗状況、レールマウンテンバイク「溪谷コース」、東京大学宇宙線研究所、国道360号仮称宮川3号トンネル工事、和牛の放牧「舌刈り大作戦」、2か所の廃屋状況を視察しました。

